

第23回地域福祉実践研究セミナー IN 静岡・掛川

ワークショップ 5 報告

地域ぐるみで一緒に学び、育ち合う「福祉共育（きょういく）」

活動報告者 富川美春 （西山口地区福祉協議会 子ども福祉委員会）

横山博則 （静岡県車椅子友の会掛川支部）

平川由加里（掛川市横須賀小学校 校長）

渡部 楓 （掛川市社会福祉協議会 福祉教育担当）

アドバイザー 青山登志夫（静岡福祉大学）中野いく子（日本地域福祉研究所）

地域担当者 前田綾 （掛川市社会福祉協議会）

参 加 者 状 況

1. ワークショップ会場

掛川市文化会館 シオーネ

2. 参加者

社協	1 1 名	行政	2 名
地区社協	7 名	当事者団体	1 名
地区まちづくり		小学校	1 名
協議会関係	3 名	学生	1 6 名
民生委員	1 名	個人	2 名
福祉施設・事業所	4 名	アドバイザー	2 名
		計	5 0 名

目

的

住み慣れた地域社会における「我が事・丸ごと」の共生社会づくりには、青少年をはじめとする全世代の地域住民などの主体形成を図る福祉教育実践がはじめの一步といえる。

町会・自治会、地区社会福祉協議会、福祉事業者、小中学校、市民活動団体などが連携し、共に学び合い育ち合う福祉教育の実践事例をふまえ「共生・共育」の地域づくりを考える。

展 開 方 法

- ・ 基調報告 「掛川市の福祉教育の実践」 渡部 楓
- ・ 実践報告
 1. 「地域で子どもを育てる福祉教育」 富川 美春
 2. 「横さんの活動報告」 横山 博則
 3. 「地域ぐるみで一緒に学び育ち合う福祉共育」
平川 由加里
- ・ グループワーク及びグループワーク報告
- ・ まとめ

報告者



基調報告
渡部楓さん



実践報告 1
富川美春さん



実践報告 2
横山博則さん



実践報告 3
平川由加里さん

基調報告：掛川市の福祉教育の実践（１）

- ・ 掛川市の概要

総人口117,864人、地区社協34地区、小学校22校・中学校9校・高等学校4校

- ・ 市社協の福祉教育の取組み

- ＜地域ぐるみの学びの場づくり＞

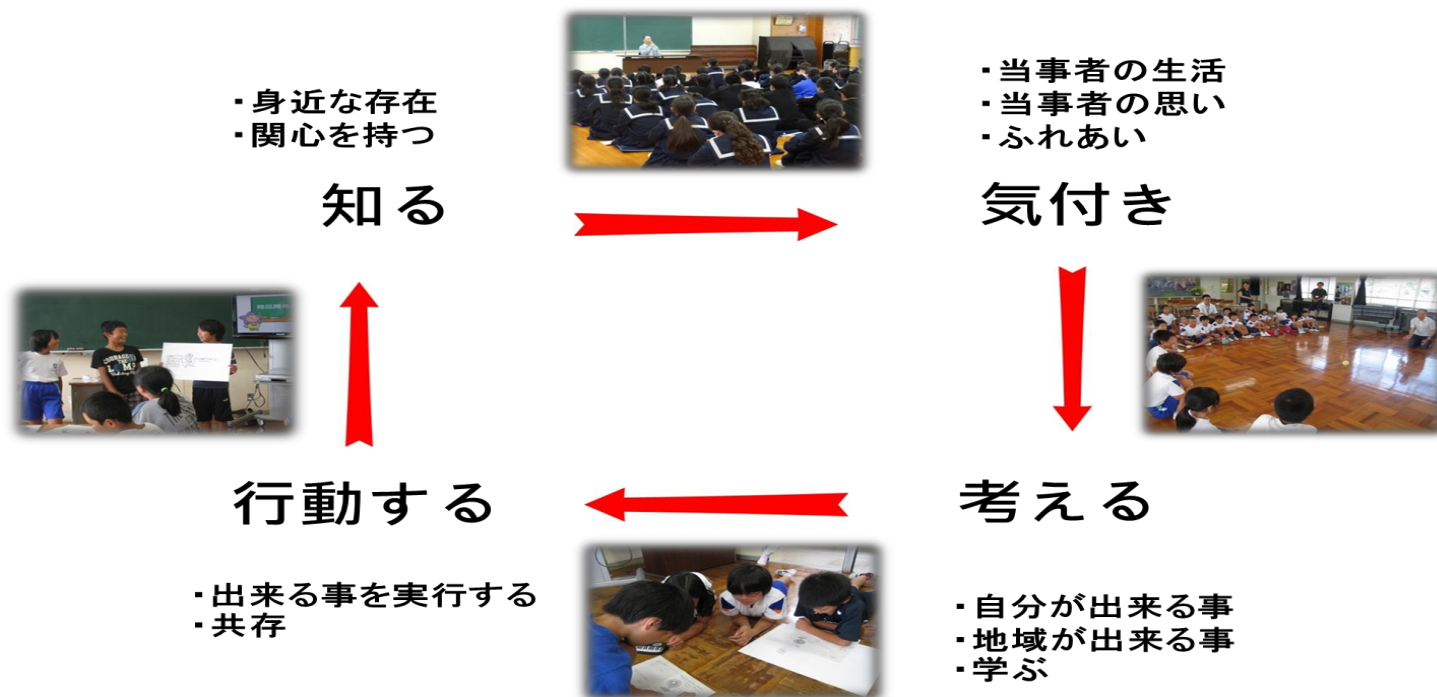
- 地域出前講座、小・中学生ふれあい交流事業、高校生ボランティアの育成、社会福祉大会、市民地域福祉セミナー、精神保健福祉講演会

- ＜学校発の福祉教育の充実＞

- 福祉教育実践校事業（H17年～35校全校指定）、福祉教育実践校連絡協議会、福祉教育協力ゲスト懇談会

基調報告：掛川市の福祉教育の実践（２）

・市社協が考える福祉教育の展開



・効果→ 福祉教育を通じた「出会い」が後々の活動に繋がる。⇒社協の強み

基調報告：掛川市の福祉教育の実践（３）

共に学び、育ち合う福祉教育実践の実現のために

【今後目指すところ】

- ・ 単発の福祉教育実践を生活につなげる
- ・ 関係機関（学校、施設等）との顔の見える関係の構築
- ・ 地域における福祉力の向上

【実現のために】

- ・ 学校との継続した関わり（関係性）の構築
- ・ 懇談会の開催（社協、学校、地域、当事者）
- ・ 福祉の土壌を育むプログラム展開
- ・ 社協職員のスキルアップ

実践報告 1：地域で子どもを育てる福祉教育

- ・ 西山口地区福祉協議会 子ども福祉委員会（ボランティア）による
福祉教育10年の取り組み

目的：地域の子どもの地域で育てる。子どもを育てながら大人の「福祉教育」（意識啓発）を図る。

参加者：小学校3年生以上の加入希望者（登録制）で、6年生まで活動

平成28年度24名、平成29年度15名、（通算79名に登録証授与）

活動内容：グループホーム・子ども園への訪問交流、地区敬老会・福祉

バザーへのスタッフとしての参加、随時企画の体験・交流事業

（小笠山冬の自然ハイキング、点字体験教室、蛍観察学習会など）

実践報告 1 : 子ども福祉の活動風景 ①



みんなでラジオ体操



保育園児との遊び

実践報告 1 : 子ども福祉の活動風景 ②



敬老会スタッフとして



バザーのスタッフとして

実践報告 2：横さんの活動報告

- ・ 小・中学校への出前福祉教育で、横さんから子ども達へ伝えたいこと
ふれあい、気付き、学びあい、考えて行動
違いを認め合い、命の大切さを学びあう
車椅子に乗っていても生きるって事は皆と同じ
 - ・ 障害者差別解消法についての意見交換会
何が差別なの？ → 障がい者が自ら発信していく
 - ・ 防災に関する取組みの問題点について住民・子どもと一緒に考える
 - ・ バリアフリー調査を住民と行い、マップづくり、まちづくりに取り組む
- 【地域生活における課題】→ 障がい者が積極的に社会参加するには、介助等の協力体制と建物・道路の障害物を取り除く環境づくりが必要である。

実践報告 2 : 横さんの活動風景 ①



実践報告 2 : 横さんの活動風景 ②



障害者差別解消法の意見交換会



バリアフリーの点検

実践報告 3 : 地域ぐるみで一緒に学び育ち合う「福祉共育」

- ・ インクルーシブ教育

車椅子の児童の入学をきっかけに、和田岡小学校の「インクルーシブ教育」が開始された。エレベーター設置、ユニバーサルデザインによる環境整備と介助員・学校サポーターの配置で誰もが学べる学校づくりへ

- ・ 福祉体験教育（1年生～6年生までの各学年ごとの年間計画）

横山さんのお話と車椅子体験、聴覚障害をお持ちの方のお話、福祉のお仕事セミナー（社協）

- ・ 親子道德会：パラリンピック選手 先輩に学ぶ

上原大祐選手（アイススレッジホッケー バンクーバー 銀メダル）

山本篤選手（走り幅跳び リオデジャネイロ 銀メダル）

実践報告 3 : 「福祉共育」の活動風景 ①



聴覚障がい者をお招きして

実践報告 3 : 「福祉共育」の活動風景 ②



メダリスト山本選手と一緒に



車いす体験学習

グループワークの様子 ①



グループワークの様子 ②



グループワークの3つのテーマと報告（1）

テーマ1：学校と地域の恒常的な連携と効果的なプログラムづくり

例：「知的障がい者と小学生への福祉教育」

＜現状と課題＞小学校の福祉教育に知的障がい者はゲストと招かれていない。テーマとして先生が扱いにくい。

＜解決策＞当事者団体と福祉機関が連携して、小学校で当事者の話を聞く交流会を開くなどして、小学生の理解を促進する。

＜展望＞この教育を受けた子どもが地域で障がい者サロンを開く。

テーマ2：地域社会における福祉課題の気づきと共有化の取り組み

例：「地域共生社会づくりの初めの一歩」

＜現状と課題＞民生委員のなり手がいない。若い人達の関心がない。

グループワークの3つのテーマと報告（2）

人と関わることを拒否する人がいる。情報を収集する場がない。

＜解決策＞地域を訪問する。ふれあいの場を増やす。地域のいろいろな人と話す機会を設ける。地域のことを知る。

テーマ3：地域社会の地域力＝福祉力を高める福祉行事・イベントづくり

例：「小地域における担い手育成の福祉教育」

＜現状と課題＞若い人の関心がうすい。リーダー頼みになっている。役職につきにくい環境がある。ニーズを把握しきれていない。

＜解決策＞小地域出前講座で「学ぶ」→ 近所を把握「知る」
→自ら関わる「実践」

＜展望＞「我が事・丸ごと」の地域力・福祉力を高める。

ま と め

- ・福祉教育は、「ともに生きる力」を育むことを目標とした教育活動である。
- ・「ともに生きる力」は、他者とともに課題に気づき、考え、実践することで培われる。
- ・高齢者や障がい者等との直接的な触れ合いや対話から、現実と課題に気づき、学び、実践する「体験学習」が重要である。



「地域福祉は福祉教育に始まり、福祉教育に終わる」